



「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。  
《その16》

## 2020年4月から、託送料金の中に、原発のための新たな負担金として、「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という2つが新たに転嫁されることが、経済産業省内で決められようとしています。

＜シリーズ第10回＞

今後の託送料金への負担転嫁については、前号まで伝えた以外にも疑問点が残っています。まず、実現不可能となりつつある使用済核燃料再処理コストの付けまわしがされないかという不安です。次のような報道があります。

① 原発から出る使用済み核燃料の再処理工場の建設が遅れている日本原燃の債務について、電力各社が東京電力ホールディングスに追加の保証を求めていることが分かった。再処理工場の建設費用など約300億円が新たな対象。・・・日本原燃は青森県六ヶ所村で再処理工場を建設しており、2018年度上期の完成を目指している。しかし、11日の原子力規制委員会で、点検や管理に問題があったとして再処理工場の新規制基準に基づく審査の中断が決まった。当初は7600億円とされていた建設工事費が2.9兆円に膨れ上がることが判明しているうえに、稼動がさらに遠のくことになりそうだ。・・・東電は・・・追加の債務保証を見送る意向を伝える方針だ。だが、・・・追加の債務保証に応じることは避けられない。日本原燃の再処理工場はこれまで完成が22回延期され、総事業費も膨らんできた経緯がある。日本原燃の経営が行き詰まれば、東電の経営に大きな影響が及ぶ可能性がある。

＜2017年10月12日付朝日新聞より＞

② 「ほぼ満杯になっちゃってますね」。六ヶ所村の再処理工場で11月、施設を運営する日本原燃の担当者はそう話した。貯蔵プールの中で保管されている使用済み核燃料は、玄海など全国の原発から集められたものだ。3千トンの容量のうち、99%近くが埋まっている。・・・当初1997年だった完成時期は設備のトラブルなどで22回延期され、いまだに本格稼動できていない。・・・当初約7600億円だった建設費も、2兆円以上に膨らんだ。・・・費用は大手電力会社などが負担し、「バックエンド費用」として電気料金に含まれている。九電が16年度に集めたのは193億円。同年度の販売電力量で単純に割ると、1キロワット時あたり0.24円になる。・・・総事業費は13兆円と見積もられている。これまでに大手電力などから集められた総額は5.2兆円で、今後も電気料金を通じて費用を集め続ける。・・・最終処分地は長く議論が続くがめどはたっていない。政府は、選定には少なくともさらに20年ほどかかるとする。経済産業省が試算した費用

は約3.7兆円だが、最終的な額はわからない。

<2017年12月5日付朝日新聞より>

③国が掲げてきた「核燃料サイクル」の実現がまた遠のいた。青森県六ヶ所村の再処理工場を運営する日本原燃は2017年12月22日、18年度上半期としていた施設の完成を3年延ばす方針を明らかにした。2兆円超の巨費が投じられながら20年以上も稼動しないことになる。もし工場が稼動しても生産されるプルトニウムを消費し尽くすあてはない。サイクル政策は進退窮まっている。・・・再処理工場では8月、非常用電源が入る建屋に雨水が流入。9月にはウラン濃縮工場で排気ダクトの腐食が見つかった。ずさんな運営・管理が話題になり原子力規制委員会も稼動に向けた審査を中断。・・・1993年に着工した再処理工場は97年に完成する予定だったが年中行

事のように延期を繰り返してきた。・・・地元では原燃への不信感が増幅している。

・・・実は再処理工場の建設をやめるわけにもいかないが、順調に進んでも別の問題が生じるという行き詰った状況にある。

・・・国の政策変更には前例がある。2016年に廃炉が決まった高速増殖炉原型炉「もんじゅ」（福井県）だ。・・・ほとんど稼動しないまま廃炉となった。再処理工場は着工から約25年がたち、建物や部品が老朽化しつつある。根本的な修復を施さない限りトラブルは収まりそうもない。原燃は7千億円の安全対策費用を見込むが、今後の点検で修復箇所が増えれば費用はさらに膨らむ。・・・再処理工場が完成した場合の問題は、核兵器に転用可能なプルトニウムが増えることだ。・・・どちらに進んでもいばらの道のサイクル政策。このままでは国の責任が問われることになる。

<2018年1月11日付日経新聞より>

**これらの記事から、使用済核燃料再処理費用は実現が不可能になり、さらに費用が青天井のように増えていく不安がでます。そうした費用増加がまた電気料金(託送料金)に転嫁されて、電気利用者(国民)の負担増とならないか、あるいは国の財源を損なわないか、と懸念しています。**

**そのことに関して経済産業省に、以下四点の「お尋ね」をしています。**

1. 現在「使用済み核燃料の再処理」に係る費用は「バックエンド費用」と呼ばれ、電気料金に含められて、そのうち「使用済燃料再処理等既発電費」と区分される費用は託送料金に含められていると理解してよいですか。
2. この費用総額を教えてください。全体像が分かるように教えてください。
3. 2020年から電気料金は自由化、託送料金はこれまで通り、ということから、次のようになるのですか。
  - ① 現在電気料金原価である「使用済燃料再処理等発電費と同準備費」は、大手電力がその電気の利用者に負担を求めるかどうかは大手電力の判断による。
  - ② 現在託送料金原価である「同既発電費」は託送料金原価として、今までどおり新電力を含む全ての電気利用者が負担する(ただし所謂「過去分(2004年以前)」だから、総額を満たしたら無くなる)。
4. これら使用済核燃料再処理の費用で新たに、託送料金に転嫁されるようなものはあるのか無いのかを教えてください。

以上

## ■グリーンコープでんき

- グリーンコープでんきの契約数は、11月5日現在、GC事業所やGC商品のお取引先も含め、下表のとおりです。(※供給開始前含む)

単協	契約件数	契約容量(kW)
GC生協おおさか	53	229
GC生協ひょうご	32	160
GC生協とっとり	40	181
GC生協(島根)	70	304
GC生協おかやま	75	300
GC生協ひろしま	100	437
GCやまぐち生協	560	2,312
GC生協ふくおか	1,884	7,832
GC生協さが	107	526
GC生協(長崎)	141	595
GC生協くまもと	490	2,295
GC生協おおいた	276	1,124
GC生協みやざき	131	477
GCかごしま生協	212	916
事業所向け(低圧)	23	83
事業所向け(高圧)	57	4,300
合計	4,150	22,071

## ■10月にお届けした電気の電源は以下のとおりです。

### 【関西電力エリア】

- 清掃工場A(大阪府、燃料：一般ごみ)と清掃工場B(大阪府、燃料：一般ごみ)、清掃工場H(大阪府、燃料：一般ごみ)の電気100%でした。

### 【中国電力エリア】

- すべて(100%)清掃工場D(島根県、燃料：一般ごみ)で発電した電気でした。

### 【九州電力エリア】

- 清掃工場E(福岡県、燃料：一般ごみ)、清掃工場F(鹿児島県、燃料：一般ごみ)で発電された電気100%でした。

### ※清掃工場の電気について

清掃工場のゴミの約半分は紙や天然繊維、木切れなどで、これらについてはバイオマス燃料とされます。そのため、清掃工場の電気の約半分はバイオマス発電に分類されます。

## ■11月14日から、熊本県小国にある馬洗瀬小水力発電所の電気をお届けしています！

- 馬洗瀬小水力発電所は、グリーン電力出資金を活用して建設された地域の発電所です。
- 年明けには、同じく熊本県の杖立温泉熱バイナリー発電所の電気も電源として活用していきます。
- 2カ所の発電所で約160軒の家庭の電気を賅える計算になります。

## ■市民発電所

- グリーン・市民電力の発電所の2018年4月から8月までの実績です。  
※前号で「グリーン未来ソーラー」を「グリーンコープ未来ソーラー」と記載していました。正しくは「グリーン未来ソーラー」です。お詫びして訂正いたします。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	710,080	28,403,200
平池水上太陽光発電所	1,260	827,971	29,806,962
深年太陽光発電所	1,550	933,101	33,591,636
若宮物流センター	47	27,547	1,019,239
広島物流センター	47	29,662	1,097,494
やまぐち西部地域本部	54	36,263	1,196,679
グリーン未来ソーラ(10箇所)	244	99,831	2,096,451
合計	4,259	2,664,455	97,211,661

## ■グリーン電力出資金

- 皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、8億6,115万円になりました。
- 出資目標額(積み立て目標額)は、11月8日現在で11億1,107,9千円になりました。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	223	250	18,150,000
GC生協ひょうご	104	126	8,706,000
GC生協とっとり	139	151	10,910,000
GC(島根)	221	227	11,590,000
GC生協おかやま	156	171	12,050,000
GC生協ひろしま	666	764	72,615,000
GCやまぐち生協	602	691	44,270,000
GC生協ふくおか	5,534	6,372	534,540,000
GC生協さが	328	366	44,565,000
GC生協(長崎)	581	638	56,593,000
GC生協くまもと	1,503	1,693	124,789,000
GC生協おおいた	791	874	69,584,000
GC生協みやざき	302	335	27,815,000
GCかごしま生協	704	772	74,902,000
合計	11,854	13,430	1,111,079,000

- グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費用などの一部に充てています。
- 2018年10月末支出総額は8億4,881万円で、残高は1,233万円になっています。
- 市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。今後ともグリーン電力出資へのご参加をよろしく願います。

これまで出資いただいた金額	861,145,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(準備中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	12,334,779